

説教余滴、2018年6月10日、変える力がある

メディアはさまざまなことを報じています。

彼らは、「ペンが剣よりも強し」を証明しようとしているようですね。とにかく一生懸命です。とはいうものの、同業者同士の戦いが強くて、本当に戦うべき相手を見失っているようですよ。特ダネ合戦、抜いた、抜かれた、抑えておけ、漏らすなよ。

その結果、餌食になった人の人権はどうなるのでしょうか。その生活は、人生は、家族やそれ以外の人たちの今後の歩みにかかわります。一切、「知らぬ顔の半兵衛さん」を決め込みです。

日本の戦後社会は、これまで大きな変動なしで推移してきました。その結果が、最近の格差社会の現出です。生まれによって全て決まってしまう。

「この子が最初の戦いの舞台で負けてしまったら、もう後がないように感じる。何としても勝たせたい。なんとしてでも合格させたい。なんでもします。」

若い母親の気持ちです。高校入試でしょうか、中学、それ以前の小学校、いや今では幼稚園を舞台に争いが始まっています。親の財力、権力、地縁、血縁あらゆるものを動員して、人生の勝利者へのコースに乗せようとするのです。

どなたでもご存知です。コースに乗ったからといってその先の保障は誰もすることは出来ない、と。病気や事故が待ち受けているでしょう。良いコースであっても、途中で転落しないとは限りません。それでも、せめて少しでも良い場所に近づけておきたい、という親心には切ないほどのものを感じます。

この社会では、生まれによってすべて決められてしまうのでしょうか。メディアは、そうした力はわれわれにある、と証明したいのかもしれませんが。自己中心、自己目的のメディアです。どうも危ないなァ。

変える力は、御言葉が豊かに湛えていると信じています。